

ハレとケ

長久手市文化の家情報誌

2022/12 ▶ 2023/03

Vol.
15



東京デスロック「再生」

劇団+現地バージョンツアー



© 西岡真一

現地 Ver. オーディション結果

11月12日、13日、東京デスロック「再生」長久手Verの出演者オーディションが開催され、年齢、性別、居住地、経験とも実に様々な方々総勢37名が集まりました。演出の多田さんの指導のもと、オーディションと言えどもかなりの運動量で進められた2時間。会場は心地よい緊張感と熱気に包まれていました。そしてついに、長久手ならではの濃い出演者7名が決定！さあ、いよいよです。

長久手Ver.出演者
 岩田 千鶴
 (gateau au fromage)
 太田 竜次郎
 (劇団エンジン)
 小川 敦子
 高木 梨帆
 田坂 歩
 手代木 花野
 福田 健人

作・演出 多田淳之介さんより

「再生」の現地バージョンは、北九州では30歳以下のメンバーで、三重では全員女性でのクリエイションとなり、劇団バージョンとも全く違うそれぞれの「再生」が生まれました。長久手バージョンは歴代最年少の高校生から40代までの幅広いメンバーでの創作になります。



まだどうなるか全くわかりませんが、それぞれの世代から見た現代のことなど考えられると良いなと思ってます。さまざまな人たちがそれぞれの視点でこの世界と一緒に生きていること、そして死んでいくこと、そこは全バージョン共通しています。長久手でどんな「再生」が生まれるか、是非お立ちあいください。

三重Ver.出演者
 藤島えり子さんより (room16)



© 西岡真一
 藤島えり子さん / 写真中央

2015年度から5年間、文化の家の創造スタッフとして活躍していた藤島えり子さん。7月に三重県文化会館で上演された「再生」に出演された藤島さんから、「再生」の魅力、実際に出演してみた感想などをお伺いしました。

「再生」という演劇作品は30分の物語を3度繰り返す構成で、かつその特異な構造を今回のツアーは前面に押し出しており、それでも作品の強度が落ちない作品です。3回繰り返すのを分かって観ているのに、最後には1回目と違う景色を見ているのです。舞台上の役者は同じことをしているのに観客が勝手にそれぞれの箇所に着目し、最後「わア…」となってしまふ。目の前の人間が必死に生きている姿、熱に圧倒されてしまうのです。そのパワーを直に感じられる演劇って良いなー！と、観客として原点回帰させてくれる作品です。

東京デスロック「再生」

劇団+長久手バージョン

日時 2月25日(土) / 2月26日(日)
 現地Ver. 13:00 / 劇団Ver. 17:00

会場 風のホール
 料金 日時指定・全席自由

劇団Ver.	一般	3,000円	学生	1,500円
長久手Ver.	一般	2,000円	学生	1,000円
セット券	一般	4,000円	学生	2,000円

発売日 フレンズ 12月3日(土)
 一般 12月10日(土)

東京デスロックとは

東京デスロックは多田淳之介を中心に2001年より活動開始。大都市集中型ではない活動を目指し2009年より東京公演休止を宣言。2011年より「地域密着、拠点日本」を宣言し、全国の地域で活動する劇場や劇団とのコラボレーション、ヨーロッパ、アジアでの公演など国内外問わず活動する。韓国の第12言語演劇スタジオとは2009年以来共作を続け、2014年には『アムレツ カルメギ』が韓国で最も権威のある東亜演劇賞を受賞。近年では舞台と客席の境目のない体験型の作品も多く、様々な演劇的手法で観客との「現在」の共有を目指している。

東京デスロック「再生」。集団自殺が社会問題となった2006年、演劇界に衝撃を与えた作品だ。30分の物語を3回繰り返すという特異な構造で、決して再生できない「時間」や今ここにある「生」を克明に描き出す。繰り返されるサドンデス(急死)、そして「再生」。作品を目の当たりにした観客は、その場所、時代によって、自身なりの「生」と向き合うこととなる……。そして、2006年の初演から数々の再演を経た2022年、東京デスロック「再生」は5年ぶりの劇団再演バージョンに加え、北九州、三重、長久手のそれぞれの地域で集まった出演者との現地滞在制作バージョンを同時上演するツアーを決行。すでに2022年7月には北九州、三重での公演が、大反響のもと幕を閉じた。そして2023年2月、2回のツアー公演を経た「再生」が、ここ長久手で最後の物語を紡ぐ。11月に行われた現地バージョンオーディションで出演者が揃い、あとは「その時」を待つのみとなった。東京デスロック「再生」ツアーファイナル。先の見えないまま進み続ける2020年代、それでも生きていく私たちのリアルな時間、リアルな身体がここに在る――。

北九州芸術劇場 × 三重県文化会館 × 長久手市文化の家
 地域の演劇文化を支える3つの劇場が、
 コロナ禍で果敢に挑む大型滞在制作プロジェクト
ついにここ長久手で終焉!!

これまでの
名演への招待
シリーズ

- 2001 6.24 タリス・スコラーズ 
- 2001 10.7 プラハ弦楽四重奏団 
- 2002 10.12 スペイン慕情/ザ・ハーブ・コンサート
- 2003 2.27 ザ・チェコ・トリオ
- 2003 7.5 タリス・スコラーズ
- 2004 12.19 ザ・シックスティーン
ヘンデル：オラトリオ「メサイア」
- 2005 6.15 フィリップ・ヘレヴェッヘ
ロイヤル・フランダース・
フィルハーモニー管弦楽団
- 2008 2.24 オランダ・バッハ協会
「ヨハネ受難曲」
- 2009 6.3 ピョートル・アンドルシェフスキ
ピアノ・リサイタル

- 2010 2.11 ハイイツ・ホリガーと仲間たち
スイス・チェンバー・ソロイスト 
- 2011 1.21 アンサンブル・ゼフィロ
～超絶！木管アンサンブルの至芸
- 2011 12.4 オランダ・バッハ協会
「ミサ曲短調」
- 2012 11.25 スティーヴン・イッサーリス
チェロ・リサイタル
"Beethoven Day"
with ロバート・レヴィン 
- 2014 2.9 ブランデンブルク協奏曲全曲演奏会
～フライブルク・バロック・オーケストラ
- 2014 11.9 ゲヴァントハウス弦楽四重奏団
- 2015 11.15 メナヘム・プレスラー ピアノリサイタル (中止)
- 2016 9.17 アルノ・ボーンキャンプ × 須川展也
サクソフォン・デュオ・リサイタル
- 2017 11.3 タンブッコ
パーカッション・
アンサンブル・コンサート 
- 2018 11.4 スティーヴン・イッサーリス
チェロ・リサイタル
- 2019 11.3 山下和仁 ギターリサイタル

パトリツィア・
コパチンスカヤ

ヴァイオリン・リサイタル
with ヨーナス・アホネン
(ピアノ)



©Marco Borggreve

名演への招待シリーズ 20
パトリツィア・コパチンスカヤ
ヴァイオリン・リサイタル with ヨーナス・アホネン

日時 2023年3月14日(火) 19:00
会場 森のホール
出演 パトリツィア・コパチンスカヤ (ヴァイオリン)
ヨーナス・アホネン (ピアノ)

料金 フレンド 4,500円
一般 5,000円
学生 2,500円
発売日 フレンド 2023年1月7日(土)
一般 2023年1月14日(土)



▲詳細はこちら

公演予告

名演への招待シリーズ 21
コリン・カーリー・グループ ～オール・ライヒ・プログラム

あのスティーヴ・ライヒが絶賛した、
コリン・カーリー率いるパーカッショングループが遂に長久手に登場！

日時 2023年4月26日(水) 19:00
会場 森のホール
出演 コリン・カーリー・グループ

料金 フレンド 4,500円
一般 5,000円
学生 3,000円
発売日 フレンド 2023年2月4日(土)
一般 2023年2月11日(土)



ヨーナス・アホネン (ピアノ)

こうして2010年代にはコパチンスカヤの名声は世界的なものとなり、
一体次に何をしでかしてくるのか？ 疑いようのない確かな技術と音
楽性を持ちながらも、常に刺激的な話題を提供してくれる存在なので
注目を集め続けているのだ。2021年にリリースしたアルバム『月に
憑かれたピエロ』では、ヴァイオリンではなく歌を披露(!?)。大御所の
音楽評論家のなかには中毒的に魅せられてしまう人が出てきたりと、
もうコパチンスカヤはヴァイオリ
ニストという枠を超えた音楽家
であり、芸術家なのである。その
衝撃は実演に触れた時ほど大き
いので絶対に聴き逃がすべきで
はない！

小室敬幸 (音楽ライター)

クラシック界を席巻する
ヴァイオリンの鬼才
ついに長久手に登場!!

「楽譜に書かれていない、作曲者が原初に抱いていたイマジネーションを
再創造しようとする」ことで、どんな古い音楽であつても「生きた音楽」と
して聴かせられる音楽家——それがヴァイオリニストのパトリツィア・コ
パチンスカヤである。1977年生まれの現在45歳だ。

東側にはウクライナ、西側にルーマニアが接する東欧の小国モルドヴァ
が彼女の祖国である。生まれた当時はソビエト連邦の統治下にあつた。
両親はソ連随一のツインバロン奏者と、彼とデュオを組んでいたヴァイ
オリン奏者だったので、民族音楽と共に育つたといつても過言では
ない。それゆえにコパチンスカヤの演奏は、四角四面に楽譜通りであ
ることよりも、楽譜に書くことの出来ないその音楽の本質を掴み取
ろうとするのだろう。

ソ連崩壊直前の1989年に一家でオーストリアへ移住。オーストリア
のウィーンや、スイスのベルンで音楽の高等教育を受け、ヴァイオリン
だけでなく作曲も学んでいる。それが現代音楽への強い興味関心へと
繋がっているようだ。ウィーンやベルンでの学生時代から表現力豊かな
演奏をしていたが、周囲からは「やりすぎ」「過剰」と言われて必ずしも
評判はよろしくなかった。しかしコパチンスカヤは周囲の言葉にあわせて
角を丸くするどころか、自分のスタンスを貫くため、理解のある共演者
を探し求めていく。

その結果出会ったのが日本でもマスメディアに度々出演して有名に
なっていた鬼才ピアニストのファジル・サイだった。2008年のサ
イとの来日公演が話題となったことで、日本でも名が知られるよう
になっていく。もうひとつ2008年に重要だったのは、指揮者フィ
リップ・ヘレヴェッヘへの指揮するシャンゼリゼ管弦楽団(古楽器オー
ケストラ)とベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を録音したことだ。
古今の大ヴァイオリニストが挑んできた作品だが、このコパチンスカヤ
の録音は歴代トップクラスに君臨する名演だと私は断言したい。

今後の創造スタッフ企画

創造スタッフ劇場「NEON」

出合いが生み出す創造の物語を描いた音楽・演劇・ダンスの総合劇。
創造スタッフ全員の力を総結集させて、すべて一から作り上げた文化の家オリジナルの公演です。

あらすじ

舞台は巨大なコンピューター「NEON」が管理するユートピア。人々はその中で何不自由ない生活を送っています。しかし、そこに住む青年アダムはその生活にどこか虚しさを覚えていました。そのアダムの前に突然、外の世界から来たというコルウスが現れて――。



公演情報

日 時：12月24日（土） 11：00 / 14：00
会 場：森のホール
料 金：500円 ※中学生以下無料
発売日：フレンズ 11月5日（土） 一般 11月12日（土）

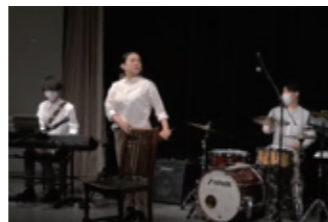


朗読と音楽シリーズ第4弾「おしいれのぼうけん」

名作を音楽付きで朗読する人気シリーズ！今回は絵本の名作「おしいれのぼうけん」を取り上げます。手に汗握る小さな大冒険の結末は……！

公演情報

日 時：1月21日（土） 11：00 / 14：00
会 場：光のホール
料 金：500円 ※3歳以下は膝上鑑賞無料
発売日：フレンズ 12月3日（土） 一般 12月10日（土）



弓立翔哉 打楽器リサイタル



打楽器の創造スタッフとして、4年間活動してきた弓立翔哉さん。今回が最後の集大成リサイタルです。普段は音楽にアクセントを加える存在ですが、今回は打楽器オンリーによる打楽器の知られざる魅力がすべて詰まったコンサートです。あらゆる打楽器を駆使する妙技をぜひお見逃しなく！

公演情報

日 時：3月4日（土）
会 場：森のホール
料 金：未定
発売日：フレンズ 1月7日（土）
一 般 1月14日（土）

（作曲・鍵盤）

小田智之さんからのコメント

私が創造スタッフとして一緒に演奏するようになってから、弓立さんの音楽性の高さにいつも驚かされていました。基本的にリズム系ならなんでもござれで、クラシックからジャズ、ポップスにラテン、そしてエレクトリックなアプローチまで何でもこなすのです！（そして何より人間として素敵）だからこそ弓立さんと音楽をしていると、変に制限を設けずに私も自由に考えることができます。弓立さんの色々な魅力を知った今、果たして今回はどんな演奏をされるのか既にワクワクしています。



文化の家の契約アーティスト
「創造スタッフ」の活動を紹介します！



創造スタッフ

ダンス企画

ダンスが専門の「林友里菜さん」の企画をピックアップ！文化の家では珍しいダンス公演。他の分野の創造スタッフともコラボして文化の家ならではの公演がたくさん生まれました。



ダンスWS はずむココロ

小中学生向けのダンスワークショップ。年齢を越えて、最後にはみんなで作った作品を発表しました！



ダンス×演劇 アートデリバリー

児童館へダンスをお届け！朗読に合わせて踊るといった新しい組み合わせ。集まった子どもたちは真剣な眼差しで見入っていました！



ダンス×演劇×即興演奏 トワイライトダンス

夕暮れの中で浮かび上がるダンス。秋の風を感じながら、朗読や生演奏とも素敵にコラボレーション！



ダンス×美術 展観するダンス

ダンスを展示？！踊る側、観る側の双方の視点から、ダンスが創られる過程を体感できる展示企画！

ゲーム音楽講座

9月2日に開催した「ゲーム音楽講座」！ドラゴンクエストをテーマに、人気音楽ライターの小室敬幸さんに解説してもらいました。講座のなかでは、創造スタッフの小田智之さんが作曲したドラゴンクエスト風オリジナル楽曲も登場！文化の家YouTubeから全編視聴できます！



文化の家
YouTube



テーブルゲームコーナー

今年から加入した美術系創造スタッフの高野葵さんによるテーブルゲームコーナー。文化の家の受付前で常時遊べます！空き時間や公演の待ち時間などにぜひ遊んでみてください！



Nagakute Nature-Centered Project

ハイキングコンサート 2022

～森のなかに音楽が、しみわたる。



10月30日、晴天のもと「ハイキングコンサート 2022 ～森のなかに音楽が、しみわたる。」を開催しました。時間をかけて長久手のまちを歩きながら、森のなかで音楽を聴き、自然との結びつきを体感する—参加者のみなさんには、そんなゆったりとした特別な時間を過ごしていただきました。長久手は西から東にかけて、街から森へと移り変わる風景のレイヤーがあります。普段は車で移動してしまうような道も、歩いてみることで今まで見つけれなかったようないろんな発見がありました。

今回は4箇所で開催をお届けしましたが、最終地点のつむぎで園場で演奏された〈ジークフリート牧歌〉(リヒャルト・ワーグナー作曲)は、自然との調和や人の愛情を感じられるような、特別な演奏でした。〈ジークフリート牧歌〉は、ワーグナーに長男が誕生したことを記念して書かれた曲です。「新しい命が生まれる」象徴であるこの作品をどうしても演奏したい—企画者である近藤薫さんは、そんな想いで選曲されたそうです。そして、ハイキングコンサートを通じて、長久手のまちをもっと好きになってほしいというのが近藤さんの願いでした。参加者のみなさんは、里山に響き渡る楽器たちの音色に包み込まれながら、自然との瑜伽(ゆが=感覚器官と結びつくこと)を感じる素敵な一日になりました。



つむぎで園場



色金山歴史公園



香流川緑地



多度神社

長久手市 × 東京大学先端科学技術研究センター 新プロジェクト始動！

10月6日、長久手市と東京大学先端科学技術研究センター(先端研)が連携協定を結びました。

この連携は、先端研の特任教授であり、ヴァイオリニストの近藤薫さんと文化の家とのご縁がきっかけで始まりました。

先端研が目指している「自然中心主義= Nature-Centered」を長久手版にアレンジした“Nagakute Nature-Centered Project”。

長久手市と東大先端研による最先端の企画をこれから展開していきます。

NAGAKUTE
NATURE-
CENTERED
PROJECT
NNCP



東大先端研について

動が行われています。
詳しくは先端研のホームページをご覧ください。



▲先端研 HP
はこちら



レポートはこちら▶



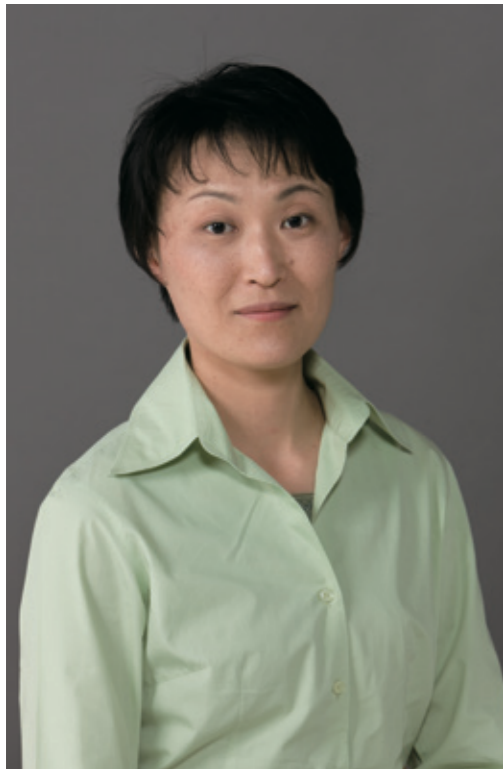
先端研との初めての共同企画として、8月20日と9月10日に「ながくてつがつくカフェ」を開催しました。つがつくカフェとは、あるテーマについて参加者が自由に対話して、考えを深めていく場です。

1回目は近藤薫さんをゲストに、「あるく」というテーマで開催。対話で考えを深めたあとは、間近で聴くヴァイオリン演奏もあり、音楽との対話にもつながりました。

2回目は「心が動いてどうということ？」をテーマに、昆虫の脳を研究されている神崎亮平先生と、子どもの教育を研究されている中邑賢龍先生をお招きして開催しました。

結論を出すことが目的ではないつがつくカフェ。参加者のみなさんからは、いろんな人の意見にふれながら深く考える機会になったとの声を多数いただきました。文化の家ホームページにもレポートがアップされていますので、ぜひご覧ください。





えんとゆかり

このコーナーでは文化の家ゆかりのアーティストを紹介します!

陶芸家 第7回 佐藤 文子 Fumiko Sato

緑豊かなこの長久手市には、飛鳥時代から平安・鎌倉時代にかけて焼かれていた古窯が点在していることをご存じでしょうか。約900年前から粘土が採土され、今と変わらない“空や風”と窯業環境が広がっていたわけです。長久手で生まれ育った私は、小学生の頃スコップで土を掘り、その粘土で土遊びをよくしていました。その時の思い出を内に秘めていたわけではありませんが、縁あって愛知県立芸術大学陶磁専攻で陶芸の世界と出会い、現在は同大学で、作家と研究者として、自らの表現を探究する学生達をサポートする教育者として忙しい日々を過ごしています。私の研究室と文化の家

との連携は、柏禄会陶磁展(2009年~2019年)での卒業・在校生の作品発表やこども陶芸講座を開催してきました。

学生達には、陶芸の素材を理解し自己の表現を創出すること、多様な価値観が混在する現在(いま)という時代にいきる陶芸家として、積極的な取り組みが展開していけるような機会と環境を作ってあげたいと思っています。文化の家との連携を通じて、アートへの関心と理解が深まり合えることを願いつつ、今後は市民の皆様へ向けた、多角的にやきものの魅力を感じることが出来る陶芸講座を開講したいと思っています。どうぞご期待ください!

朗読と音楽で紡ぐ名作シリーズ「おいしいのぼうけん」を読んでもみました。感想を聞いてみると、「ちょっとこわかったけど、お父さんといっしょに読んだから大丈夫だった」との返事が返ってきました。願わくば、この本をお父さんといっしょに読んだ日のことを大人になっても覚えていてくれたらうれしいです。

ちなみに、自分の5歳の子どもにも「おいしいのぼうけん」を読んでもみました。感想を聞いてみると、「ちょっとこわかったけど、お父さんといっしょに読んだから大丈夫だった」との返事が返ってきました。願わくば、この本をお父さんといっしょに読んだ日のことを大人になっても覚えていてくれたらうれしいです。



*「おいしいのぼうけん」の公演情報は6ページをご参照ください。

ちょっといいですか? chotto ii desu ka



談：橋倉裕幸さん

このコーナーでは、文化の家事業にいらっしやっただお客様のリアルな声をお届けします。今回は9月2日~4日に行われた「文化の家×愛知県立芸術大学 ART SHOP」に来てくださったお客様に感想を聞いてみました。

Q このイベントにいらっしやっただ、きっかけは?

A 「国際芸術祭あいち2022ポップアップ」を見に行こうとしたところ、関連企画として愛知芸大の学生さんの作品が見れると聞きアートショップに足を運びました。

Q 来てみていかがでしたか?

A 思った以上の作品数でした!こんなに沢山のアーティストが長久手で活動されているんですね。

Q お買い物されていかがでしたか?

A 普段は目的を持って買い物をしますが、ここでは「何があるのかな?」という探す楽しさがありました。アート購入という、少し難しいかと思いましたが、アーティストさんやスタッフさんと会話する中で、どこに置くのか、どんな時に眺めるのか、イメージが広がって「これ!」と決まりました。芸大生と交流できる場として、これからも楽しみにしています。



文化の家×愛知県立芸術大学 ART SHOP 2022年9月1日~4日 文化の家2F パブリックスペースにて開催

長久手市文化の家 情報誌

ハレとケ

ハレは非日常、ケは日常を意味します。文化の家は、練習場所となるアートリビング(ケ)と、発表の場であるホール(ハレ)を兼ね備えた劇場です。アートリビングでの稽古の成果をホールで披露する、ケからハレへという文化の家のコンセプトから、「ハレとケ」という誌名が生まれました。

第15号 2022年12月
発行：長久手市文化の家
印刷：ラクシル株式会社
デザイン：田中杏菜
編集：小島祐未子(家鴨の編集舎)/山本宗由、坂元奈未、水間芽利(長久手市文化の家)

編集後記

今号は目玉情報が目白押し!その中でも【東京デスロック「再生」劇団+長久手バージョン】は、文化の家にとっても非常に画期的な企画です。オーディションで選ばれた出演者7人と、作・演出の多田淳之介さんによる長期滞在型のクリエイション。長久手バージョンでは、長久手出身の17歳から東京のダンサーまで、実に様々なメンバーでの制作現場となります。どんな作品になるかは、現段階では誰にも分かりません。何もかもが決まっている安心感はもちろん心地良いですが、何かと不安定な現代、未知の中で起こる奇跡を、私は楽しみたいと思っています。皆様、乞うご期待です!

ハレとケ編集担当：坂元奈未

リレー連載 ハレとケのあわい

文化の家の職員による徒然なるコーナー vol.15

松林 沙紀 (生涯学習課事業係)

今年度の愛知県の国際芸術祭「あいち2022」のテーマ【STILL ALIVE(今も生きる)】を知ったときに、強く思い起こされることがありました。

その子は大学のギターサークルの同期でした。一見常にローテンションに見えるけれど、好奇心旺盛で寂しがり屋、人好きのする性格で、サークルの部員はみんな彼のことが大好きでした。そんな彼は、大学4年生の春、21歳でその生涯を閉じました。

わたしはもう、あの子の声をうまく思い出すことができません。声だけでなく、10年という時間の中で忘れてしまったことや薄れてしまった記憶は、たくさんあります。

そんな中で、明確な記録として彼が現在に残したもののひとつが、動画サイトにアップされた演奏動画です。アニメーション映画「秒速5センチメートル」挿入歌「想い出は遠くの日々」を電子ピアノで、ギターデュオ山弦の「Song for James」をクラシックギターで、などなど……今でも聴くと悲しみが伴いますが、同時に、どの曲も一言一音大切にしている感じと、その柔らかい音色に「あの子の音だ……」と懐かしさがこみ上げます。

動画サイトのコメントの中には、彼がいなくなつてから投稿されたものもあります。「とても丁寧な音で好きです」「この人の弾く曲をもっと聴きたいな」……。コメントを投稿した人は、彼がすでにこの世にいないとは、おそらく思っていないでしょう。でも、彼の弾く曲を聴いて、心地いい、癒やされる、綺麗だ、と言う人がいる。今でもそれが、誰の目や耳にも止まれる場所に存在しているというところに、彼がまだ生きていると、わたしは感じるのです。

あの子が若くして亡くなった事実はいつまでも悲しいままですが、それでも彼は生きていたし、生前に関わりがあったわたしたちの中で生き続けるし、ネットワーク上でも今も生きています。

一方で、実際にまだ生きている自分が、彼のように、誰かになにかを残せるだろうかと思ふことがあります。その答えはまだ見つかっていません。ただ、生きているからこそ、考えることもできる。いつまで続く人生かわかりませんが、日々模索しながら、過ごしていきたいと思っています。

Arts Library

文化の家 アーツライブラリー

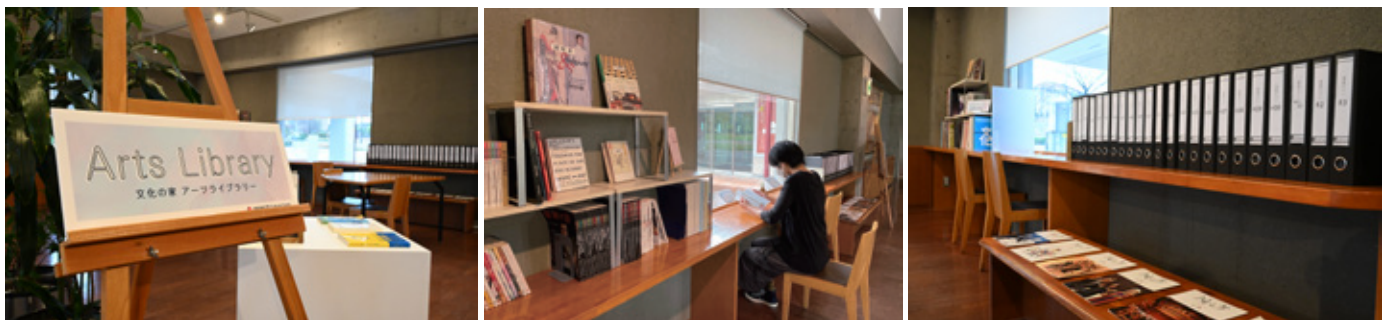
文化の家2階の情報ラウンジにアーツライブラリーを開設しました！

文化や芸術に関する資料が閲覧できます(資料の持ち出しはできません)。音楽や演劇などの入門書も置いてあるので、公演前の予習にもお使いいただけます。

また、アーツライブラリー内の文化の家アーカイブズコーナーには、過去の公演のチラシや文化の家の発行物が置いてあります。将来的

には、文化の家で過去に行われた公演の音源や映像が聴けるようなコーナーにすることを予定しております。

開館時間中は自由にご覧いただけますので、ぜひ公演前の空き時間などにご利用ください！



会員募集中！

長久手市文化の家
2022

フレンズ

NAGAKUTE CULTURAL CENTER FRIENDS MEMBER'S CARD

フレンズに入ってもっとお得に楽しもう！

【フレンズ会員特典】

- ①文化の家自主事業公演チケットの割引
- ②文化の家自主事業公演チケットの先行発売
- ③機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
- ④フレンズが行う文化事業、交流事業への参加



フレンズとは？

文化の家ではオリジナル企画をはじめ、音楽・演劇・伝統芸能等、いろいろな自主事業を行っています。フレンズ会員になると、チケットの先行発売や割引等のさまざまな特典があります。

【会費】	個人会員	年額1,500円(10月1日以降に入会の場合は1,000円)
	家族会員	年額1,000円(機関紙・事業案内等の郵送はありません)
	法人・グループ会員	年額15,000円(10月1日以降に入会の場合は10,000円)

【有効期限】	入会后、最初に訪れる3月31日まで。
【入会・更新方法】	文化の家1F受付へお申し込みください。

表紙画像：東京デスロック『再生』劇団バージョン

 **長久手市文化の家**
NAGAKUTE Cultural Center

〒480-1166 愛知県長久手市野田農 201 番地
お問合せ：0561-61-3411

地下鉄 藤が丘 駅	リニモ	はなみずき通駅	1番出口から徒歩7分
	車	8分(徒歩25分)	
	名鉄バス	長久手文化の家北	徒歩4分


■愛知医科大学病院行き(4番乗り場) ■菱野団地行き(5番乗り場)


名古屋
長久手
IC


※駐車場の台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

長久手市文化の家

 長久手市文化の家 official

 長久手市文化の家

 @bunkanoie

 @bunkanoie

公式 Web サイト

